



身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2022.12.23

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと → 金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

2023年1月、2月の石神井川観察は、1/12(木)、1/27(金)、2/9(木)、2/24(金)

9:30JR 社宅前街路の観察 10:00 帝京大学病院北側の御成橋たもとから再出発

寒風吹きすさぶ中、野草の芽生え

★★人が生きていくうえで、野草は必要ないのか？★★



12/23、今年最後の石神井川緑道観察。気温は、9:30のスタート時で3.8℃が11:00を過ぎても3.7℃と、むしろ低くなるほどの寒さ。川風が身に沁みましました。

それでも5人もの参加者で観察スタート。左の写真は第3エリアのとば口の緑道ですが、写真に映っているみどりをよく観察すると、アメリカフウロ、アレチノギク(蕾)、ホトケノザ(閉鎖花)、ヒメオドリコソウ、ヤエムグラ、ノゲシ(花)、ノビル、フラサバソウ(双葉)、オキザリス(花)に加えて同定不能な???があり、10種もの植物が動き出していました。生物



多様性の初歩的な見本がここにあります。他方、下の写真左は新装なった帝京大学付属病院向かいの「緑道ではなくなった遊歩道」、右は新しくつくられた同病院北側の街路樹下で誰かが折り取って放置したシロザの無残な姿。考え方はいろいろあるかも知れないけれど、野草がなくなった環境、つまり生物多様性が失われた環境って、人が生きていけない環境になるはず。

開花期が終わったはずなのに、また咲きだす花？



←セイタカアワダチソウの実は確かに泡立っているように見えて、そのように見るとなかなか見ごたえあります。これは秋の花。それがもう終わったというのに、新しい花があちこちに咲きだしていました。

通年開花に「体質改善」したのか、冬でも咲いている花



上の左はノゲシ、中はハキダメギク。かつては暑い夏に咲いていた花です。今では1年中咲いている花になってしまいました。いちばん右のエノコグサは、一度枯れて、また青々と新しい花が咲くのを繰り返すこと2回。この6年間では12月に入ってから開花は初観察です。野草たちが寒さに耐えるような「体質改善」をしたというよりも、環境が暖かくなっているということ。エルニーニョ現象によって「寒い冬」となっても、気候の大きな動きの中では温暖化が進行しているのでしょう。

残したい戦争遺跡



石神井川の加賀エリア一帯は江戸時代は加賀藩の下屋敷でした。明治に入ってすぐに政府に召し上げられて、陸軍の火薬工場になりました。それが太平洋戦争終結まで続き、戦後はGHQ 接收を経て公共施設に使われるか民間に払い下げられてきました。その上に建った現加賀中学校や帝京大学医学部と附属病院の地形は元の火薬工場を偲ばせるもの。愛歯技工の建物は閉校したまま残っていますが、火薬工場の施設そのものではないかと思われます。モルタル塗り壁がはがれたところから、もともとのレンガの壁がのぞいています。

板橋区は加賀公園の砲弾の弾道試験場と理化学研究所跡を戦争遺跡の公園として整備するということですが、もっと広範に、残っている戦争遺構にも注目してもらいたいものです。